

会 議 録

(/)

会議の名称	平成 26 年度第 2 回川越市事務事業外部評価	
開催日時	平成 26 年 10 月 9 日 (木) 18 時 00 分 開会 ・ 21 時 00 分 閉会	
開催場所	市役所第 5 委員会室	
議長氏名	石川 久 (淑徳大学教授)【評価人リーダー】	
出席者氏名	【外部評価人】 別紙のとおり 【環境政策課 (1 事業目)】 箕輪 信一郎 (課長) 島崎 淳一 (副課長) 山口 喜義 (主査) 曾根 靖人 (主事) 【国際文化交流課 (2 事業目)】 松田 裕二 (課長) 中里 良明 (副課長) 田中 はる奈 (主任) 三宅 貴大 (主事)	
欠席者氏名	高山 大輔 (社団法人川越青年会議所理事長)	
事務局職員 職 氏 名	若林 昭彦 (行政改革推進課副課長) 町田 順一 (行政改革推進課主事)	
会議 次 第	1 開 会 2 外部評価人紹介 3 議 事 (1) 1 事業目の外部評価 (2) 2 事業目の外部評価 4 閉 会	
配布資料	・基本資料 ・事業資料 (3.緑化推進事業) ・事業資料 (4.姉妹・友好都市交流)	【別紙 1】 【別紙 2】

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>1 開会</p> <p>2 外部評価人紹介 石川評価人(リーダー) 高梨評価人 高橋評価人 成松評価人 真下評価人 増野評価人</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 1事業目の外部評価 【対象事業:「緑化推進事業」(環境部 環境政策課)】</p>
評価人リーダー	<p>それでは、評価を始めていききたいと思います。事業概要の説明について10分程度でお願いいたします。</p> <p>事業概要の説明</p> <p>事業概要についての説明(環境政策課担当)</p> <p>質疑応答・議論</p>
評価人リーダー	<p>それでは、事業概要の説明が終わりましたので、各評価人から質問等ありましたらお願いします。</p>
評価人	<p>緑化推進事業の予算の内訳はどのようになっているのでしょうか。</p>
環境政策課担当	<p>緑化推進事業の平成25年度決算額で苗木配布事業が14万5千円、市民花壇指定事業が150万円、緑の募金緑化事業が442万円、緑のカーテン普及啓発事業が129万8千円、生け垣設置補助金交付事業が23万1千円、屋上緑化・壁面緑化補助金交付事業は交付件数が0件でしたので、0円となっております。</p>

<p>評価人</p>	<p>募金緑化とはどのような事業ですか。</p>
<p>環境政策課担当</p>	<p>埼玉県で推奨している募金活動に緑の募金というものがございまして、埼玉県民の皆様、緑化に貢献できるような活動ですとか事業に使えるように募金の一部を活用しまして、市内の緑化等に使用させていただき制度でございます。募金額につきましては、例年川越市は埼玉県の皆様から多大なる募金をいただきまして900万円前後を募金いただいております。前年度の募金に対しまして本年度はその2分の1の額が川越市内の緑化の活動につきまして交付金としていただける金額になりまして活用させていただいております。また、その募金につきましては川越市の自治会連合会の方にも募金の額の1割が行きまして、自治会も緑化に活用させていただいております。</p>
<p>評価人</p>	<p>募金は緑の羽でしょうか。</p>
<p>環境政策課担当</p>	<p>そうです。</p>
<p>評価人</p>	<p>2点質問なんです、事業の廃止・縮小したときの影響のところに書かれている「地球温暖化防止やヒートアイランド現象の緩和の効果」ということで、この事業の目的が環境なのか緑を推進していく目的がどう整合するのか。もう1点が、「第三次川越市総合計画などの上位計画の目標を達成できなくなる」といったことで、この上位計画の目標とはどのようなものでしょうか。</p>
<p>環境政策課長</p>	<p>緑化推進そのものが環境の保全につながると考えておりまして、特にヒートアイランドの緩和につきましては壁面緑化であり屋上緑化であり緑が増えることによって実際に建物内部の温度が下がったりということでも環境保全ですし、緑が二酸化炭素を吸収することも温暖化対策に寄与することと考えます。</p>
<p>評価人</p>	<p>この目的のところにそういったところが全然書かれていません。もしここに出ているような上位権限として地球温暖化防止とヒートアイランド現象の緩和というのであれば、それをこの緑化推進でどういう役割をそこで果たしているのか。たとえば地球温暖化でCO2をどの程度減らそうというのであれば、この緑化推進事業でそのうちのどの程度をこの事業で賄おうということがあるのか。当然この事業を廃止したときに効果があるのだから事業を廃止したら困りますよということを言っているわけですよ。だったらこれに触れていないと事業を無くしたときにほんとに効果があったのかどうかの判断がつかないわけですよ。</p>

環境政策課長	<p>CO2 をどれだけ吸収できるかについては、地域レベルですとなかなか算定が難しい部分です。市で温暖化対策の防止計画というのをもっておりまして、川越市の地域全体の中でどの程度 CO2 が排出されているかの計算を行っております。けれども、緑化推進事業の効果としてどれだけ CO2 が吸収できるのかという算出は現実的には難しく、そういう意味では具体的な緑化推進事業の数値の評価というのは出来ていない状況です。ただ、目的と書いてあることの整合がないというところについてはご指摘いただきありがとうございます。</p>
評価人	<p>上位計画の目標というのは何でしょうか。成果指標や活動指標で示しているような数値は出ているのでしょうか。</p>
環境政策課担当	<p>具体的に指標として成果でしたり活動という言葉を経済計画とイコールで結ばれるわけではないのですが、経済計画の実施計画の目標数値としてはこういった意味合いの指標としてとらえております。</p>
評価人	<p>経済計画ではどういうものを示しているのですか。</p>
環境政策課長	<p>緑化の本数、市民花壇の設置、緑のカーテンといったものを何年度までの目標値ということでやるということです。</p>
評価人	<p>評価指標は経済計画に載っているということですか。</p>
環境政策課長	<p>これがすべて載っているわけではございません。概念と致しましては、経済計画の中で、第5章で「人と自然がともに生きる、地球環境にやさしいまち」という大きなくりがあって、その中で環境保全対策があって、その中で緑の創出をしていきたいと思いますという経済計画のくりがある中で、全体として緑を増やしていきたいと思いますという概念を経済計画に書いております。</p>
評価人	<p>目標を決めて、例えば緑化本数というのがありますよね。目標が1000本で実績はそれを上回る1643本なわけですよ。というのは、これは無計画ということですよ。計画が1000本であるなら1000本を達成するためにどうするか活動するのが普通であって、もう目標額を超えちゃっていてもそれいけやれいけということで予算はどんどん使いますよという状況になっているのであれば、節度がなくなってしまうわけですよ。年間で予算を決めているわけだから、何本をどこに植えて行きたいと、配布していきましようということを考えるのがその部署の責任であって、あっちもこっちも植えていいよという感じでこっちも植えましたあっちも植えましたの結果、というのは成り行き勘定しているということですよ。</p>

環境政策課長	確かに目標の設定については緑化本数の目標が1000本で、すでに超えているということは考え直さなくてはならないと思います。
環境政策課担当	緑化本数の関係で数値が年度によって隔たりがあるのですが、先ほどお話ししました緑の募金の緑化事業ということでのもので、各公共施設に希望を取っており、希望のところに希望の本数を配布した結果であるため、波があるという現状になっております。
評価人	ということは、予算化したときには、どれだけ希望が出てくるかわからないけれども予算を決めちゃったということになりますね。
環境政策課担当	前年度、過年度にも小学校に希望をとっておりまして、植えたいという面積が多かったり少なかったり、また種類によっても金額が変わってきますので、その年度内の予算の中で行った結果、本数的にはまばらになっております。前年度希望をとって、出来るだけ反映させた結果となります。
評価人	生け垣設置補助の実績が非常に少なく屋上緑化・壁面緑化についても近年はゼロという状況ですが、これでは34万人の人口を抱える川越市の中で、この事業がどれだけ効果が出せるのか疑問を感じますが、理由についてどうお考えでしょうか。
環境政策課担当	お話のありましたとおり件数が少ないということですが、近年の少なさというのは、川越市の補助金の制度について市民の方、企業の方に周知・啓発・情報提供をしきれていないというところだと思います。
評価人	ニーズはあるけれども周知されていない結果ではないかということでしょうか。
環境政策課担当	生け垣を設置したいというニーズはあるのですが、基準が「皆様にも周知できる」ということから道路に面することとしているため、民地の隣土の生け垣には今の制度では交付しておりません。そのため、基準が合わなくて補助出来ないというケースがございます。
評価人	相談件数はそれ相応の数があるのですか。
環境政策課担当	年間で10件～20件あります。
評価人	そういうニーズがあるのであれば条件を緩和するということを検討されたいかがでしょうか。

環境政策課担当	<p>現行では、道路から30cm下がったところまでを生け垣としています。先ほどの基準に合わないというご相談につきましては、道路境のところに防犯上に格子状のネットフェンスを設置し、その内側に生け垣を設置したいという相談は数多くあります。ただ、現行制度ですと基準には見合わないということでお断りしております。そういった緑化パネル、フェンス緑化に対する基準を緩和することでそういった方々が救われて、なおかつ緑化も進むということで検討していきたいと思います。</p>
評価人	<p>壁面緑化・屋上緑化の件数がゼロになっていることについてどうお考えでしょうか。</p>
環境政策課担当	<p>基準が少し厳しいというのがありまして、建物に緑を配置することによって建築の耐火基準といったものの制限だったり、植物は生き物ですから水管理やメンテナンスが必要ということで、維持管理と初期投資の費用を考えると、一般の方はやりたいという気持ちはあるのだけれどもそこまでは出来ないというのが多いと思います。</p>
評価人	<p>地域の人達の状況は大きく変わってきていますよね。高齢化が進んでいるとか、戸建てよりもマンションに住む高齢者が多くなり、地域は空き家が増えている。高齢者が住んでいても、維持管理ができないということで、たとえ生け垣にしたとしてもその後の管理が行き届かないために、枯れさせたりといった可能性が高い。それを懸念して、申請までいかないというようなことがあると思います。それから、ニーズが変わってきている。制度発足当時は各自治体でスタートしていたと思いますが、状況がかなり変わってきていますので、制度や条件を少し見直したりしなければ、成果をほとんど上げてないということに等しいのではないのでしょうか。たとえば、CO2の削減を目的とする事業であると考えますと、企業や事業所の緑化事業をもっと促進するという方法の方がCO2削減には成果を上げるとは思います。その辺はいかがでしょう。</p>
環境政策課担当	<p>近年の傾向と致しまして、屋上緑化よりも太陽光発電の方に関心のある方が多いと思います。太陽光については毎年件数が増えています。また、単価も低くなっています。補助金の額も下がっていますが、まだまだ需要が多いです。屋上緑化につきましても需要がありますのでできればご利用いただけるように努力してまいりたいと思います。</p>
評価人	<p>緑化事業は県もやっていますよね。市もやっている。それからボランティアもやっている。NPOもやっている。このような状況の中で気になるのが、洩れ、ダブリがないのかどうか。たとえばヒートアイランドだとか温暖化と</p>

	<p>か、予算を立ててらっしゃると思いますが、住民感情からすると違うんじゃないかと。ゼロクリアでお話しをしていただきたいです。上位計画があるからそれに基づいて予算の範囲内でやらなければならないと。住民感情からしますと、毎年度ゼロクリアで本当に必要なのかを検討していただきたい。緑化計画とおっしゃられますが、周りの住民たちはホームセンターに行っ自分たちで緑化をおやりになっていますよ。そこは市がやるべきなのか。たとえば、NPO と協力してやるとか、自治会と協力してやるとか、そういう発想があるのか。住民ニーズがあると言うなら、0件というのは考えにくいです。</p>
<p>環境政策課長</p>	<p>この制度自体利用が少ないというのは見直すべきだと思っております。減らせる部分は減らして、また、緑化の為に新たな制度が必要ではないかと検討しているところです。今ある制度が使いにくいというのであればより使いやすい制度で何かないかと考えているところです。自治会や地元との協力、タイアップにつきましては、市民花壇を指定させていただいております。現在63カ所ございますが、こちらは地域活動で、花壇は川越市で設置し、維持管理につきましては地元の方々が世話をしています。また、年2回の花苗の提供を川越市で行っております。緑のカーテンについては、昨年からは自治会長にも話もしまして、自治会館や集会所にも協力をいただいております。</p>
<p>評価人</p>	<p>話を聞いていて、緑があればいいという、こういうことに対してやっているから結果としてこうなんだ、必要なんだというところが見えてこない。木を植えたり花を植えたりということは自助努力でできることだと思います。市が公金を使っていいものか。民間にお任せできるのであれば、市は違うことにお金を使う。例えば、川とか自然など、そういうものに力を入れたらどうか。横の組織との連動が必要ではないのでしょうか。</p>
<p>評価人</p>	<p>苗木を年々減らしてきているとありますが、その理由についてお聞かせください。</p>
<p>環境政策課担当</p>	<p>苗木配布本数を年々減らしてきている理由は、予算の関係になります。苗木配布事業というものは年1回なのですが、イベントの際に緑化推進ということで、無料で苗木を配布しております。</p>
<p>評価人</p>	<p>上位計画に緑の基本計画と環境基本計画を持っていると書かれていますが、緑の基本計画と環境基本計画では緑化推進事業についてどのように書かれているのでしょうか。</p>
<p>環境政策課担当</p>	<p>緑の基本計画の中では、重点計画の中で「街中に花いっぱい、緑いっぱい」の将来像を掲げております。その中で、都市空間の中に緑を創出していきますといった将来像を掲げております。環境基本計画も同様でそういった将来</p>

<p>評価人</p>	<p>像を掲げておりますので、基本は市内の中に緑の空間を創出することです。</p> <p>この事業の大目標は、都市空間の緑化であり都市空間の創出であると思いますが、その為に、緑化推進事業に6つの事業がありますね。うち2つは補助金に関する事業になっていると思います。それら6つの事業によって大目的である「街中に花いっぱい、緑いっぱい」はどのように達成されるのかが見えてこない。生け垣設置補助や壁面緑化は補助金を出すことによってどうして都市空間の緑化が進むのか。壁面緑化に関しては制度的な問題であると思います。ややこしい資料を作って写真をとって市役所に申請するよりも、ホームセンターに行ってゴーヤの苗を買ってきたほうが早いんですよ。それから考えますと、制度的なミスマッチが起きているのではないかと思います。なぜこれに対して補助事業でなければいけないのでしょうか。壁面緑化であれば緑のカーテン普及啓発事業だけで十分なはずなのに、なぜ壁面緑化の補助を継続しているのか。それ以外の事業についてはそうなんだろうなとは思いますが、なぜ苗木を配布しなければならないのか。市民花壇を指定する事業をなぜやらなければならないのかという点について今ひとつ見えませんので、やらなければならない理由がありましたら教えてください。</p>
<p>環境政策課担当</p>	<p>壁面緑化につきましては、緑のカーテンでいいのではとのお話があったのですが、基本的に緑のカーテンは簡易的な壁面緑化の一つなのですが、夏の間だけで枯れてしまうことがほとんどです。なので、基本的に壁面緑化に使われるものは1年中ずっと育っていくものなので効果があると思います。壁面緑化はハードルが高いというのもあるんですけども、緑のカーテンが1年中続いてくれたらいいのになとおっしゃってくれる人も多いですし、補助金があるなら壁面緑化もやってみようかと思う方もいらっしゃると思います。そういったことから、補助金の意味はあると思います。</p>
<p>評価人</p>	<p>補助金制度を設けている市町村は県内では少数派ですが、最近やめた自治体はありますか。</p>
<p>環境政策課担当</p>	<p>屋上緑化・壁面緑化につきましては4市町村となっております。生け垣設置補助につきましても23市町村が実施しておりますが、近年やめたところはございません。</p>
<p>評価人リーダー</p>	<p>ありがとうございます。それでは、評価人の皆さんは評価シートと意見シートの記入をお願いします。</p> <p>評価結果発表</p>

評価人リーダー

それでは、各評価人から発表をしていただきたいと思います。

評価人

私は全部で17点、上から4, 4, 3, 3, 3です。まず時代適合性は、市が関与しないことは不可能だろうということでこの数値になっております。効率性については目標に対してこれだけお金をかけて事業をいっぱいやっているが、さてどうなんだろうということです。これは有効性も同じです。方針妥当性がこちらの分析ですと有効性に変えるよりも制度的な課題だと思っております。全体的にみて事業全体の体系性がとてもわかりづらいなと思っております。色々な事業をやっていることはすごく重要なことだと思えますし今後も続けていくべきだと思うんですけども、何のためにこの事業をやるのか、どの部分で地域の力を活用するのか、個人にどの程度委ねるのか、市がやらなければならないのはこの部分であるということが、大目標である「緑いっぱいの街をつくる」うえで見えづらくなってしまっていると感じます。ただ、事業そのものは必要だと思っておりますので、事業に対して体系にまで踏み込んだ評価をしてほしかったなと思いました。以上です。

評価人

私も4, 4, 3, 3, 3の17点です。時代適合性は、事業自体は緑地を増やすということは好ましいことなんですけど、これで環境政策課という部署でやっているわけなんですよね。私が思うのは、重要な事業なんだけれども環境を担当する部署が果たして担当していくのはどうしても限界があって、ここでやっている具体的な事業は都市景観を良くしましょうというところであって、環境がやるような事業じゃないんじゃないかなと思いました。都市計画課とかまちづくりに関係する部署が、花いっぱいにしましょうとか緑を増やしましょうというなら私も納得して良い事業だと褒めたいんですけど、環境政策課といたらやはりここに出てくる地球温暖化やヒートアイランドになりますから、目的からずれてきているといったことで、本当は時代適合性もあって補完性もあるんだけど環境がやっているということで点数が低くなりました。方針妥当性については、都市緑化全体のランドデザインが作られていないということで、それが原因で客観的な評価基準ができていないというふうに思います。以上です。

評価人

私は4, 3, 2, 2, 2の合計13点となります。時代適合性は、緑化促進の大義名分は時代適合性にマッチしていると思います。ただ、これは当時頻繁に広がってそれを各自治体が取組みだして、それにのっかって始めた事業であり市の独立性から始まった事業ではないと思います。ただ、その中に川越市独自の地域特性に合った、ニーズに基づいた対策を柔軟に推進しているという取組みがあまり見られないのが残念な部分になります。地域はど

んどん変化しますし住民も変化します。それから太陽光のような新しい技術もどんどん進んでいくわけですね。その他にも色々なエコエネルギーの開発が進み続けています。その中で、緑化事業ばかりに固執して、一回作ったからそのままいこうというのは時代に合わないと思います。補完性については、企業も住民も NPO も色々なところで活動をしているところで行政の役割というのがあると思うんですね。そういう様々な業界と連携をしてみんなで川越の街をどういう風に緑豊かな魅力ある街にしていくかというところで共通認識を持ってやっていくということがもう少し必要で、連携への働きかけが行政の役割としては重要だと思います。成果から見ますと効率性は低いと思いますし有効性も低いというふうに思います。成果を挙げている苗木の配布については、配れば配るほど増えていくものなので、政策努力の結果ではないと思います。私が期待したいのは市民花壇の指定事業でして、市民参加を促すことはいいことで、どんどんやっていってもらいたいと思います。その他の事業は形骸化していて同じことを繰り返しているというのは行政の姿勢としてどうかなと感じます。もっと新しい事業、時代に合った住民ニーズにあった事業をどんどん作りだしていこうという想像力、チャレンジ精神を大事にしてほしいと思います。

評価人

私は5, 3, 3, 2, 2の合計14点とさせていただきました。緑化ということで環境の時代適合性はあると思います。ただし、行政が行う部分と民間の人たちの役割を分けた方がいいのかなということで補完性は3点としました。たとえば公共施設は市でやり、家のことに関しては、個人や民間で十分だと思いますので、啓発運動とか別の形での市としての提案の仕方があるのではないかな。あるいは、補助金の制度の見直しとか別の形でやれるのではないかなと思います。有効性につきましては、都市空間の街中を花いっぱいにするということですが、市としてターゲットを絞っていくような政策をだしていくのかといったほうがいいのではないかなと思いましたので、目的に対する成果が上がらなくなっているのではないかなと。そういう意味では方針妥当性もそういったことを決めながら、街中に緑いっぱいの都市空間にしていこうという方針があるのであればそれに目指したアクションはどのようなものがあるかというのを決めていったらいいのではないかなと思います。以上です。

評価人

私は、3, 2, 2, 2, 2の合計11点としました。補完性については行政が行政主導で最初の取っ掛かりを行い、その間の実行というのは住民が参加して住民主導で行うというのも時代の流れかなと。残念だったのは「協働」という言葉が出てこなかったことです。市民、企業、NPO を巻き込んでといったキーワードが出てこなかった。効率性については、緑化事業というのは即効効果が出ないものだと思います。事業がたくさんあるなと思う市民もいればそうではないという方もいらっしゃる。どうやって限られた予算の中で

<p>評価人リーダー</p>	<p>お金を有効に使っていくか。他の部署とも連動して進めていただきたい。有効性については、この資料を見る限りは、成果が出ているとは感じないです。方針妥当性についても見えなかったです。以上です。</p>
<p>評価人リーダー</p>	<p>ありがとうございます。私の点数を申しあげますと、時代適合性は3点にしました。大きな意味で行けば適合性はもっと高くてもいいのかもしれませんが、基本的に行政評価というのは目標に対する評価なんですね。つまり、どういう目標を掲げてどこまで到達できたかというのが行政評価です。残念ながらこの資料からはどういう目的・方法・手段を使って達成しようとしているかがよく見えませんでした。たとえば苗木を何かイベントの時に配布する。じゃあ配った苗木はいったいどういうふうになっているのかという追跡調査はしていないわけですよ。しかしそれは苗木を配ったという評価になっているわけですね。それがはたして緑化に繋がったのかということとはわからない。目標に対する評価がきちんと体系的に整理されているかという評価にはなっていないと思います。評価自体に甘さがあると思います。だからそんなに高い点数は付けられないというふうになります。特に今の補助金ですが、これは市がやらなければならないものなのではないでしょうか。見直してもいい時期じゃないかと思います。それから緑の計画や環境基本計画が「街の中に緑いっぱい空間をつくる」ということを掲げているのであれば、重点を絞った形で進めていくということではなければ、この緑化事業はなかなか成果が上げられないのではないかと思います。漫然とした評価をいくら掲げても「緑になったね」といった実感がなかなか湧いてこないという認識をもちました。ぜひ、メリハリを付けた計画を立てて、それが目に見えるような形で評価されることを期待したいと思います。</p>
<p>評価人リーダー</p>	<p>全体の点数を合計しますと、100点満点にしまして47点となりました。判定の結果、事業の在り方の妥当性はやや低いということになります。評価人の意見を参考にしてお考えいただければと思います。</p>
<p>評価人リーダー</p>	<p>どうもありがとうございました。</p>
<p>- 休憩 -</p>	
<p>3 議 事 (2) 2 事業目の外部評価 【対象事業：「姉妹・友好都市交流」(国際文化交流課)】</p>	

評価人リーダー	<p>それでは、会議を再開いたします。まずは担当課から事業概要の説明を10分程度でお願いします。</p> <p>事業概要の説明</p>
国際文化交流課副課長	<p>事業概要についての説明（国際文化交流課）</p> <p>質疑応答・議論</p>
評価人リーダー	<p>それでは早速ですが、何かご質問のある評価人の方はお願い致します。</p>
評価人	<p>海外の都市3つ、国内の都市3つの合計6つの姉妹・友好都市があるのですが、姉妹・友好都市を結んだ目的を教えてください。</p>
国際文化交流課長	<p>それぞれの市とは盟約を締結しており、目的については盟約宣言に記してあります。各都市の個性や特色を生かし、教育、青少年、文化、スポーツ、経済等、さまざまな分野での交流を継続的に進め、両市町村民の相互理解と親善を図る目的で姉妹・友好都市を結んだものです。</p>
評価人	<p>教育ですとかスポーツですとか、目標をもって姉妹都市の締結をしたということですね。では、その結果どうでしたかというのを聞きたいです。事業目的は当然に成果が求められるわけですね。だから漠然と姉妹都市を結んだのではなく、各都市ごとに何らかの成果があるのかなと。あるならお聞きしたいです。</p>
国際文化交流課長	<p>成果につきましては、例えば教育ですと本市の未来を担う中学生をオッフエンバッハ市、セーレム市へ派遣しております。</p>
評価人	<p>それで派遣で行って参考になったとか自分の為になったなどの感想があると。では派遣で行った生徒たちを後まで追いかけていますか。</p>
国際文化交流課担当	<p>一つの例としてですが、10年ほど前に、ドイツのオッフエンバッハ市へのプログラムに参加した女生徒がいました。その方は川越市のプログラムで訪問したことが一つのきっかけとなって、ドイツやヨーロッパに興味を持たれまして、大学でドイツ語を学ばれて、川越市の通訳・翻訳ボランティアに協力していただいております。さらにその後、現在はドイツで就職をされまして、ドイツの旅行会社で働いておりまして、そして今でも本市の翻訳ボ</p>

<p>評価人</p>	<p>ランティアに協力していただいております。このようなことが一つ形になる成果ではないかと思えます。</p> <p>派遣についてはどのような基準で派遣する人を選んでいるのですか。派遣された人は良かったが、残りの人にとってはどうだったのか。成功例を上手く積み上げていかないとこういった交流という曖昧にした言葉で国際理解だとか国際交流を言ったときに、時代はどんどん変わってきていると。果たして特定の都市との交流でいいのかどうか。あるいはヨーロッパやアメリカだけでいいのかどうか。こういったことの見直しがなされなかったら何の意味もないと思えます。今後はアジアだと思うなら、なぜ検討しないのか。考えるべきことがいっぱいあるのに、現在の課題と状況に「課題はない」としてしている。課題がないということは問題意識がないということですね。今やっていることを今やっている通りにやっていけば自分の部署はいいんだと。でも評価シートを見ると疑問のところがいっぱいあります。それを問題意識としてとらえていないことに問題があるという風に思うんですが。</p>
<p>国際文化交流課長</p>	<p>まず、派遣生を選ぶ基準ですが、市内公立中学校に各校1名、おおむね男女比が等しくなるように推薦していただいております。</p>
<p>評価人</p>	<p>それがいいと思っているんですか。</p>
<p>国際文化交流課長</p>	<p>良い方法だと思っています。男女比も同じぐらいですし、地域にも偏りがありませんし、予算的にも各校1名が上限となっております。</p>
<p>評価人</p>	<p>少なくとも税金がそこに投入されているわけですから、広く平等にという考えがあってやっているんじゃないかなと推測するんですけども、果たしてそれでいいのでしょうか。私は中学生なら中学生の自主性で手を挙げさせてその中から選考するとか、もっと違う方法も有り得るんじゃないかなと。</p>
<p>国際文化交流課長</p>	<p>各学校の中で生徒に自主的に手を挙げてもらい、その中から選考するやり方をしている学校もあります。</p> <p>姉妹都市との交流だけでいいのかということですが、このシートは姉妹・友好都市交流を記入しているシートでして、他にも国際交流センターでアジアの方を講師にして色々な講座をやったり、市内に在住している外国籍市民の方を中学校の国際理解講座に派遣して話をしてもらおう等の活動をしております。姉妹・友好都市交流はその中の一部になります。</p>
<p>評価人</p>	<p>確認ですが、姉妹・友好都市交流の目的は、交流することなのか、それとも異文化を理解することなのか、どちらでしょうか。</p>

国際文化交流 課長	異文化を理解することだと考えております。
評価人	<p>そうしますと、この姉妹・友好都市交流の中で見ていくと、基本的には中学生の交流派遣団を派遣するとか市長に対する表敬訪問、あるいはビジネス研修生の相互派遣事業等。端的に言いますと、参加する人間に限られますよね。幅広く市民の異文化理解を深めるということであれば、より幅広い市民の参加可能な友好都市交流の事業があってしかるべきと思われませんが、それがあまり読み取れないんですけれども、具体的にこういったことがありますよというのがありましたら教えてください。</p>
国際文化交流 課長	<p>派遣には費用がかかるためお金がないといけないというのかもしれませんが、例えば青少年交流ですと、派遣と受け入れを行っておりますので、受け入れたときに、例えばホームステイファミリーになっていただければ異文化交流を体験できるのではないかと考えております。</p>
評価人	<p>そもそもの姉妹・友好都市交流事業、さらにその上位となるべき多文化共生と国際交流・協力の推進、さらにその上位の豊かな心と文化をはぐくむまちというからには、当然のことながら市民全体に対してこれが行われるべきだというふうに解釈しているんですけれども、少なくとも姉妹・友好都市交流に関してはその参加者が非常に限定的であるような気がするんですね。例えばホームステイに関しましても受け入れ先というものが交流することは出来るけれども、それに参加しない市民はできない。オッフエンバッハ、セーレム、オータンと姉妹・友好都市関係であることをどれくらいの市民が知っているのだろうか。そうなりますと、そもそも何のための姉妹・友好都市なのかという話になってきてしまう。ですので、もっと市民が広く異文化理解を深めるような仕掛けというのがこの姉妹・友好都市交流に含まれているのかどうか。あれば教えてください。</p>
国際文化交流 課副課長	<p>事業一覧の中にかわごえ国際交流フェスタというイベントがございます。主催はかわごえ国際ボランティアの会という民間のボランティア団体が主催している事業ですが、市としても後援し、出来ることを協力して進めています。多くの市民の方が参加している事業の一つの例でございます。</p>
評価人	<p>目的である異文化理解とはどういったものかと考えますと、一つの交流を深めるという人間的な交流だと思います。特に中学生という多感な年代に世界に向けて目を開かれるということは大変意義のあることだと思うんです。予算の関係で限られた人数になることはある程度やむを得ないことだと思います。しかしながら、報告書を見ますと研修旅行のように毎日見学となっています。せっかく現地に行って現地の中学生と交流できる時間を作ることが</p>

	<p>ほんとに大事になると思います。同じ世代のもの同士が長い時間を共に過ごして交流してみるということは、本人にとってすごく刺激的な体験だと思います。こういったことが異文化交流として異文化理解に繋がると思いますし、大きくなってもその国に愛着を持ち続けることに繋がると思います。また、いくつかの国とそういった交流をし続けることも非常にいいことだと思います。その中でプログラムの内容が気になります。あちこち見学をするだけでいいのかなと。</p>
<p>国際文化交流 課副課長</p>	<p>今回はセーレム市の平成 25 年度の報告書を見ていただきましたが、セーレム市の派遣が日本の夏休みの期間になります。一方、セーレム市はバカンスの時期と重なるため同世代の子が多くいる時期ではないことがあります。そのような状況の中で、何とか工夫して、同世代でランチを食べて話したり、お祭りに案内してもらったりして、交流を行っています。また、オッフエンバッハ市への派遣は基本的には受け入れてくれる方は同世代のお子さんがいらっしゃる方で、ワークショップで一緒にダンスや演奏を行ったり、同世代の子とほとんどの時間を一緒に行うプログラムが組まれています。</p>
<p>評価人</p>	<p>かわごえ国際交流フェスタの参加が多いということですが、市の事業費は 900 万円ぐらいある中でかわごえ国際交流フェスタへの補助金や負担金はどれくらいなのでしょう。</p>
<p>国際文化交流 課長</p>	<p>川越市の国際貢献事業補助金ということで 4 万円を補助しております。また、テントや机等の貸し出しの協力を行っています。</p>
<p>評価人</p>	<p>評価シートの実施にかかるコストと実績で、費用対効果で多いか少ないかはわかりません。私は市内在住ですが、姉妹・友好都市があることを存じ上げておりませんでした。どれだけ予算がかかって、どれだけの中学生在が派遣されて、結果どれだけのフィードバックがあるのかというのは、ここへきて初めて知りました。それがはたして 1000 万円近くを使って市民の方に理解を得られるものなのか。行った方は人生の大きなインパクトになったんだと思いますが、その他の方はどういう風に見ているのでしょうか。</p>
<p>国際文化交流 課長</p>	<p>姉妹都市とか友好都市は興味のある方には目につきますが、あまり関心がない方には目に付かない部分もあるのかと思います。</p>
<p>評価人</p>	<p>広報活動が必要だと思います。市はこういうことをやっているんだということを市民に知らしめる必要があると思います。次に、事業概要の内訳にある寄附金とはなんなのでしょう。</p>

国際文化交流 課副課長	小浜市が台風による被害を受けたため、その災害見舞金として川越市から小浜市の方にお渡ししたものでございます。
評価人	姉妹・友好都市交流事業において、市民自己負担が50%と100%のところがありますがこの違いは何でしょうか。
国際文化交流 課長	中学生の派遣が自己負担50%、大人の方が全額自己負担で行っております。
評価人	今後、姉妹・友好都市を増やす予定はあるのでしょうか。質問をした理由なんですが、なぜヨーロッパなのでしょう。アジアに目を向けてもいいと思います。アジアではEUと同じぐらいの規模のASEANを作ろうとしている。大きな市場があるなかで、中学生を派遣してもいいのではないのでしょうか。こういった切り口はないのでしょうか。
国際文化交流 課長	アジアとの交流というのは確かに課題となっております。姉妹都市となりますと、歴史的なつながりがあるとか民間同士の交流があるとかキーパーソンがいたりしないと姉妹都市交流として盟約することは難しく、現状では、まだアジアの中にはそういった都市がございません。また、アジアとの交流につきましては、市内にいるアジア地域からの外国籍市民の協力をいただいて、中学校で国際理解の講座の講師になってもらったりして、アジアの方との交流の機会を提供しています。
評価人	周りに合わせるのではなく、川越市独自の目線、切り口でアジアに目を向けてもいいのではないのでしょうか。
評価人	交流件数は今後さらに増やしていく計画なのか、現状維持でいくのでしょうか。
国際文化交流 課長	まだ検討は始めてはいませんが、現状が限度ではないかと考えております。
評価人	姉妹・友好都市というのは、今必要なのでしょうか。姉妹・友好都市関係は国際化の波に乗った時に全国的に進んだものと記憶しておりますけれども、交流の中味が経済・文化・スポーツ・教育といったように、政治以外のすべての交流ですね。幅広くお付き合いしましょうというのが姉妹・友好都市の在り方だと思うんですね。オッフエンバッハ市と姉妹都市を結んだのが今から30年前になります。30年経った今でもそういった形の交流が変わらず続いていくべきものであるとお考えなのかどうか。

国際文化交流 課長	交流は続いていくべきだと思いますが、時代の流れによって交流の内容は変わっていくかもしれません。
評価人	具体的な交流の効果はあったかどうか教えてください。
国際文化交流 課長	教育に関しては、中学生の交流について学識経験者からもっと派遣人数を増やすべきではないかという評価をいただいております。経済については商工会議所同士の交流があげられております。
評価人	何か具体的に成果があったとかというのはなかったでしょうか。
国際文化交流 課長	例えば、市内にある建設会社はセーレム市から輸入住宅を輸入して販売したりしています。スポーツでは、オッフエンバッハの生徒たちが来て日本の子どもと運動公園でサッカーをするなどがありました。
評価人	<p>国際文化交流課だけでやってしまうというのは、経済や文化やスポーツや芸術となると、とても担当の方だけではまかなえる問題じゃないと思うんですよ。徹底的にやるのであれば、産業担当や観光担当に出てもらって具体的な案を作ってもらって。経済的な交流をしましょうということで、向こうの特産品をもってきて見てもらって買ってもらうというのも有り得るわけですよ。向こうには例えば小江戸ストリートができたとか、そういったものができて初めて交流ができたと言えるのです。ただ人間が交わったって形にも残らないし、双方のメリットは無いわけです。長続きの交流を続けていくには双方のメリットがなかったら続かないと思います。ただそうすると、惰性になってしまう。中学生の交流だって、引率者が旗振って連れて行くようなのが交流だとは私は思えないです。私立の中には自費で行っている学校はいっぱいあるわけですよ。そういった中で税金を使って行くんですから、そうすると当然成果が求められるわけですよ。ですから企画の段階からちゃんとした企画が立てられていないと成果で表せるものがないんです。結果が出ないのに毎年1000万円をつぎ込んでいるわけですよ。やっぱり何らかの市民へのメリットというのが必要なんじゃないかと思います。</p>
国際文化交流 課長	国内の姉妹・友好都市の経済交流については、かわごえ産業フェスタに国内の3姉妹・友好都市が来て物産の販売等しておりますし、小浜市にはこちらからも行って販売等もしています。海外姉妹都市はまだそこまで行っていないというのが現状です。
評価人	中学生の年代の人が国際交流をすることはいいことだと思っております。私立学校で最近では海外が当たり前ようになっておりますけれども、私立学校に行っていない人達もたくさんいるわけです。経済的な事情で私立学校に

	<p>行けない人もおります。そういった中で比較的軽い負担で海外へ出ていくことができるというのは、行政の支援があって可能なことであって、若いときから国際感覚を培っていくということは大事だと思います。目的ですが、目に見える成果は、私はそうとは限らないと思います。人との関係を作るといことは非常に大きな成果だと思います。そのためにはこのプログラムでは問題があると思います。こういう企画がなければ、川越市民の公立中学校の子ども達はなかなか国際的な視野を広げる機会はないわけですから、私はこの企画には評価しています。ただ、疑問に思うことは、姉妹・友好都市でなければいけないのかということです。姉妹・友好都市にとらわれなくても国際的な視野を広げる事業は出来るはずです。</p>
<p>評価人リーダー</p>	<p>ありがとうございます。それでは評価人の方はそれぞれシートにご記入をお願いします。</p>
	<p>結果発表</p>
<p>評価人リーダー</p>	<p>それでは各評価人から発表をお願いいたします。</p>
<p>評価人</p>	<p>私は3, 4, 3, 2, 3の合計15点にしました。時代のニーズに適合しているかというのは、世間はグローバル化と言われていきますからそれからは外れていないと思います。補完性は、中学生の派遣は行政がしていくしかないのかなと。効率性は、メリハリをつけていかななくてはいけなくて、どのように充実した内容だったかを市民に対して報告する義務があるんじゃないかなと。有効性は、行って帰っての短期間では難しいのかなと思います。費用対効果を考える必要があると思います。以上です。</p>
<p>評価人</p>	<p>私は4, 3, 2, 3, 2の合計14点です。時代適合性については、確かに人と人との交流は重要だと思いますが、今の時代色んなツールがあるわけですから、交流だけをとってみれば色んなツールを使って交流できるわけです。時代が変わってきているのだから、直接顔を合わせたりの交流だけではない違う交流のやり方もあるのではないかとということで4点です。補完性ですが、事業自体は否定しにくい内容ですけれども税金を使うわけですから市内の公立中学生に限定する必要はないわけですね。川越市に住んでいる中学生であればみんなチャンスがありますよという税金の使い方のほうが公平だと思うんですよ。それが公立だろうと私立だろうと川越市民には変わりはないわけですからその中から選んだ方が私はいいと思います。効率性は、成果</p>

評価人

指標が無いので効果は無いと思いますので2点。有効性についても金額を投入している割には成果がないのかなということで3点。方針妥当性については、在り方自体をきちんと作っていないということが最大の弱点だと思いましたので2点。以上です。

私は、5, 5, 3, 3, 4の合計20点です。時代適合性では、今の日本人は国際的な関心が薄くなっていてナショナリズムの傾向が強くなってきていると感じております。もっと国際的な感覚を若いうちに持つ必要があると思います。積極的に機会を作って派遣していくということは意義のある事業だと思います。実際に向こうの若者と寝食共にするということはとても大きな体験になると思いますし、そういった経験がその後が続いていく。全員ではないかもしれませんが、必ずそういった人たちが出てくると思います。そういったことが積み積み社会が変わっていくという要素を作っていくと思います。補完性でも、行政の役割の意義があると思います。ただし、効率性有効性については問題があると思います。プログラム内容に問題があると思います。夏休み中でも友好関係を築こうとするなら夏休みでも中学生と接触できる内容を作ることができると思います。ですからもう少しプログラムの内容を充実したものにしていければいいのかなと思います。有効性についてもまだまだ不十分な感じがしますので、工夫の余地があるのではないかと思います。それから子どもの選定にしましても、公平性公正性が確保されているのかということも学校にお任せということで見えてきませんので何らかの指標なりを一緒に作ったりされたらどうでしょうか。この事業の方向性は賛成しますけれども内容の充実を図る余地はあるだろうと思いました。以上です。

評価人

点数は3, 3, 2, 2, 2とさせていただきます。最初の目的というところで考えますとだいぶ離れているのではないかと思います。目的が多文化共生と国際交流ということですが、国際交流というテーマで海外姉妹都市は決められてしまっているわけですから、もっと違うところに目線をやってもいいのかなと思います。国際化やグローバル化など今の時代のものではあるんですけども、海外姉妹都市といったときに時代に適合しているのかなと思わざるを得ないのかなと。また、海外姉妹都市に意味があるのかといったときに内容を変えていくとおっしゃっていたんですけども、そうすると今の川越市民に意味とはなんですかというのを伝えていく必要があるんじゃないかなと。私たちはそこと姉妹都市を組んでいて文化だとか芸術や経済など、こんな形でこういう人たちと交流をしていくんだというようなものを見せられれば、私たちはそういうものが何かで入ってきたときに個人的にでも交流できると思います。近くへ行ったときに寄って行こうかなとかになると思います。そういう情報を提供してあげるなどをしたほうが交流になるのではないのかなと思います。効率性については、今やられている事業でも効果があ

<p>評価人</p>	<p>るのかもかもしれませんが、もっと大きな枠で考えたときに一部の中学生だけにしか効果がいかないわけですから、何か違う手はないのかなと。市民が興味を持てるような有効な情報を提供していく必要があると思います。以上です。</p> <p>私は3, 5, 3, 3, 3とさせていただきます。補完性は、行政が自らやる必要があると思います。中学生を連れて海外へ行くというのは公的機関でしか出来ないでしょう。ただし、それがほんとに社会のニーズなのかと言いますと、今の時代にあってそのやり方が良いのだろうかとなります。行政が姉妹・友好都市交流を通じて異文化理解を深めていくということについて、そうなんだろうけれどもそれが時代に適合しているかどうかは疑問が残ります。効率性・有効性については、目に見える成果はなかなか見えづらいというのがあるんですけども、問題に思っているのが、参画できる市民が非常に限定されているということです。外国籍市民が1%を超える時代において異文化理解を深めることは絶対に必要だと思いますしそのための事業を進めなければいけないのですが、それが交流事業として中学生を派遣する、向こうの高校生を迎え入れる、商工会議所のメンバーを派遣するというやり方でいいのかということです。未来の若者の異文化理解を深めるということについてはその通りだと思いますが、市民全体の異文化理解にはなりづらいということです。その点において効率性・有効性の点数は低くならざるを得ないということです。派遣受け入れ事業というよりも幅広く姉妹・友好都市から色々な人を市全体でホストとして受け入れるほうが市民全体の異文化理解を深めるうえでは有効ではないかと思っております。方針妥当性ですが、書いてある内容はその通りだと思います。今後も継続していく必要はあると思います。ただ先ほど申し上げたとおり、時代にあったものかどうかというのが疑問に思ったところです。課題がないということについても考えていただく必要があると思います。以上です。</p>
<p>評価人リーダー</p>	<p>ありがとうございました。実は、決定打は課題がないと書いてあるところだったんです。3, 2, 3, 2, 2を付けています。まず方針妥当性ですが、昔ながらの姉妹都市をいまだに続けているということは貴重なことだと思います。しかし、いつまでもそうしていく必要はないのではないかと思います。そういう意味で、姉妹都市の適合性は半分以下の点を付けざるを得ない。補完性については、もちろん行政がやる役割はあると思います。実際に中学生を派遣して、行った方は立派な感想を書いていますし自分の人生にとってもいい経験になったと思います。しかし、その広がりや継続性はどんなふうになっているか。活動の評価は組織化だったり継続性であったりするんですね。どれだけ参加したかというのはどれだけ組織化したかということですからその辺がどうなのかなと思いました。行政じゃなくても国際交流で非常に活躍しているNPOもあります。行政だけが課題を一手に受けるのではなくて、その活動を行政がコーディネートするという役割に変わっていくべきだと考</p>

	<p>えております。そういう意味で、自らの力を発揮しながらできるだけ民間を生かしていく形であってほしい。その方が民間で活躍している人たちも活動費を得たうえに、自分たちがやって更に活動をサポートできて活躍できるという状況になるのではないのかなと思っています。効率性の効果はすぐに出るものではないと思っています。有効性ですが、現行で成果を挙げているかは評価シートから読み取ることは出来ませんので2点とならざるを得ません。方針妥当性につきましても「課題はない」といったところに表れるように、もう少し意欲的な態度でこの事業に取り組んでいただければいいのではないかと思いました。</p>
評価人リーダー	<p>全体の評価につきましては100点満点に換算して50点。事業の在り方の方向性はやや低いという評価になります。評価人の皆様のご意見を参考にしながら、適宜意欲的な取組みを期待したいと思います。</p>
評価人リーダー	<p>どうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>